右之趣、於頭宅申渡之、

〔文政雜記三〕文政十二年己丑、細川越中守ゟ伺書、

細川越中守城下、肥後國熊本金屋町嘉次平と申者、文化九年、同所米屋町市原屋俊十郎被雇罷登、京木屋町二條下ル二丁目江逗留罷在候内、同年六月九日、俊十郎江手疵爲負、同人義相果、嘉次平儀ハ逃去申候、○中略俊十郎忰岡崎平左衛門ト申もの、當正月十五日、同國益城郡下横邊田村に於て、僧形之者ニ行逢、平左衛門召連候者、嘉次平を見知居、言葉をかけ候得ども、了山と申坊主ニ候紛敷ものニ無之段相陳候得共、糺問におよび候所、全嘉次平ニ而、當時身を隱し候ため致剃髪候由、其身申候ニ付、俊十郎忰平左衛門ニ者父之讐を報候段申聞、直ニ討留申候、○中略右之通ニ付、平左衛門儀、如何可申付哉、且嘉次平死骸如何可仕哉、此段奉伺候樣、越中守國元ゟ申付越候、以上、

細川越中守家來　寺本龜藏

三月八日

右御附札、四月廿二日、御同人樣ニ而御渡、

書面平左衛門儀、父之敵嘉次平事、了山を討留候段ハ構無之候間、押込可被差免候、了山死骸取計方之儀ハ、京都町奉行江承合候樣可仕候、

〔續視聽草三集四〕山本復讐○中略

酒井雅樂頭（播磨姫路城主）家來三右衛門實子　山本宇平　廿二才

同人娘　りよ　廿才

同本多意氣揚家來山本三右衛門實弟　山本九郎右衛門　四十才

右之者共之父并兄三右衛門江、去々巳年○天保四年十二月廿六日朝、爲手負逃去候、表小使龜藏と申もの、行衛相尋、領分ハ勿論、御府内并何國ニ而も見當り次第相糺候上、父兄之仇打果申度段、前書之者共願出候ニ付、去午年二月廿六日御用番大久保加賀守樣江申上置候處、右龜藏義、今曉於神